（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス　あんプラス三河島			
○保護者評価実施期間	令和8年10月1日	～	令和8年10月14日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	58	（回答者数）	47
○従業者評価実施期間	令和8年10月1日	～	令和8年10月14日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	4	（回答者数）	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年10月22日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こども一人ひとりの特性や発達段階を踏まえ、個別活動や集団活動の取り組み方を工夫し、それぞれに応じた支援を行っている。	日々の行動観察や記録を通してこどもの特性や課題を把握し、発達段階や状況に応じて活動内容や取り組み方を工夫している。また、職員間で情報共有を行い、支援の統一に努めている。	職員間でこどもの特性や支援方法の共有を徹底し、経験年数にかかわらず適切な支援が行えるよう、観察の視点や対応方法の共有、研修の充実を図る。
2	保護者との面談や日々の情報共有を大切にし、学校や相談支援事業所等の関係機関とも連携しながら、こどもの状況に応じた支援に努めている。	面談やLINE、HUG等を活用して保護者との情報共有を行い、意向や悩みの把握に努めている。また、学校や相談支援事業所等と必要に応じて連携し、こどもの状況に応じた支援につなげている。	保護者との情報共有や意向確認の機会を充実させるとともに、学校や関係機関との連携を強化し、こどもを取り巻く課題に対して多角的な支援ができる体制を整える。
3	調理や買い物、地域イベントへの参加、お出かけ等、多様な活動を取り入れ、こどもの自主性や社会性を育むとともに、興味・関心を広げる機会を提供している。	調理や買い物、地域イベントへの参加、お出かけ等、さまざまな活動を取り入れている。こども主体の企画会議も行い、自分で考え、選択する機会を設けることで、自主性や社会性を育んでいる。	こどもの興味・関心や発達段階に応じた活動をさらに充実させ、職員の得意分野に偏らない多様なプログラムを検討する。また、地域資源を活用し、さまざまな体験や交流の機会を広げていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	こどもの行動観察や記録の内容、支援方法に職員間でばらつきがあり、個別支援計画の内容が日々の支援に十分活用されていない場合がある。	職員の経験年数や知識、こどもの行動を捉える視点に違いがあり、支援方法や記録内容にばらつきが生じている。また、日々の業務の中で計画内容を十分に確認・共有する時間の確保が課題となっている。	ミーティングや事例検討を通じて、こどもの特性や支援方法について共通理解を深める。記録の視点や方法を整理し、個別支援計画を日々の支援に活用できるよう、職員間の情報共有を徹底する。
2	訓練室のスペースや天井の高さに制約があり、活動内容によっては十分な環境を確保することが難しい。また、活動プログラムの多様化にも継続的な工夫が必要である。	訓練室の構造やスペースに制約があることに加え、限られた時間や人員の中で活動を企画・準備する必要があるため、活動内容が職員の得意分野に偏りやすい。	活動内容に応じたスペースの使い方を工夫し、必要に応じて屋外施設等の活用を検討する。また、職員それぞれの得意分野を活かしながら、新たな活動プログラムを企画し、こどもの興味・関心に応じた多様な体験機会を提供する。
3	保護者の意向や悩みを把握する機会に差があり、学校や関係機関との連携も十分に図れない場合がある。情報共有の方法や連携機会の充実が課題である。	保護者の就労状況や来所機会の少なさにより、面談等で意向を確認する機会が限られる場合がある。また、学校や関係機関との日程調整が難しく、継続的な情報共有が十分に行えないことがある。	面談に加え、LINEやHUG等を活用して保護者の意向や悩みを把握する機会を増やす。また、学校や関係機関と情報共有の方法や連絡体制を確認し、継続的かつ円滑な連携に努める。